

中学1年において、状況に合った既習表現を使って、情報を発信できる指導の工夫 —「個人用フラッシュカード」、「トークシート」の活用、スキット作りを通して—

外国語班 田村 強（中学校教諭）

目指す生徒像

中学校1年において、状況に合った既習表現を使って、情報を発信できる

生徒の現状

- 基本的な語彙や基本文が定着していない。
- 場面に応じた英語を選択し会話を続け、情報を発信することができない。

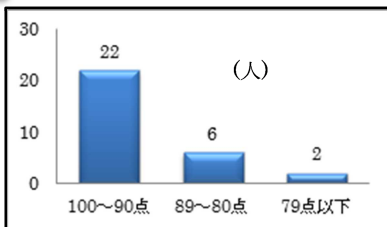
原因

- 既習の英単語や基本文を、くり返し使う場面が少ない。
- 会話を続ける経験が少なく、英問に対する答えがすぐに出てこない。

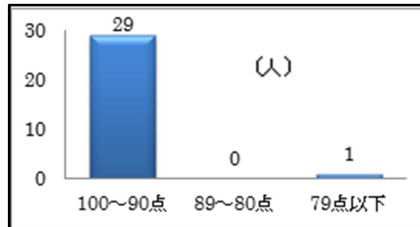
解決策

- ① 単元（PROGRAM）毎に、単語や基本文を1枚のカードの表に英語、裏に日本語を書いた「個人用フラッシュカード」を作り、くり返し日本語に訳すことで、単語や基本文の定着を図る。

手だて①
「個人用フラッシュカード」の活用



PROGRAM6の意味確認テストの結果



PROGRAM6の英単語書き取りテストの結果

単語と基本文について、意味確認テストを行ったところ90点以上が30名中29名となった。

- ② 対話モデルを載せた「トークシート」を活用し、Q&Aの形式でくり返し基本的な答え方を習得することで、英問に対して英語で答えることができるようにする。

手だて②
「トークシート」の活用

「トークシート」を活用した結果、アンケートでは、簡単な英語であれば質問に答えられるようになったと回答した生徒は30名中28名いた。また、オリジナルスキットを作った際に、「トークシート」で習得した会話を2つ以上盛り込んだ生徒が30名中28名いた。

1 Yuki: Hello, Ken How are you?
2 Aki: I'm good. Is this your book, Yuki?
3 Yuki: Yes, it is. I like books. How about you?
4 Aki: I don't like books but, my sister likes books.
5 Yuki: Wow. Does your sister have any books?
6 Aki: Yes, she has a lot of books.

- ③ 「個人用フラッシュカード」から任意の基本文を選び、スキットを作ることで、状況に合った既習表現を選択し、情報を発信できる力を付けさせる。

手だて③
オリジナルスキット（ストーリー）の作成

6 Judy: Yes he does.
7 Saki: By the way, are you good at cooking?
8 Judy: Yes I am, I am good at cooking.

Are you good at baseball?という基本文のbaseballをcookingに変えて使用している。このように習得した基本文を自分のスキット（ストーリー）に合うように変化させ使うことで、情報を発信することができた。

成果

- 「個人用フラッシュカード」を使った学習は、単語や基本文の習得に役立った。また、結果として、英文の音読の仕方を習得する上でも有効であることが分かった。
- 「トークシート」を活用して、Q&Aをくり返すことは、質問に応じた答え方を習得し、英問に英答できるようになる上で、効果的であった。

課題

- 「トークシート」の中では、応答は一つしか用意しなかったため、スキット作りで、「トークシート」の会話をそのまま使用する生徒がいた。英問に対する様々な応答を用意することで、より幅広く英語で答えることができると考えられる。

